

武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
 武蔵野市中町1の13の1 3F
 電話 0422(51)3131
 FAX 0422(51)3133
 musasino@yomiuri.com
 都内版編集室
 電話03(3217)1465・1466
 江東支局 電話03(3631)6116
 立川支局 電話042(523)4477
 ホームページ
 www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette
 03(6272)9027
 【折込チラシ】 0120-03-4343
 【読売旅行】 03(5550)0666

11月20日(金曜日)
 旧 10月6日<先負>

あすの暦

通日 325
 月齢 4.9 (正午)
 日出 6.22
 日入 16.31
 月出 11.22
 月入 21.22

—東京標準—
 満潮 9.12
 19.05
 干潮 1.53
 14.11
 (中潮)

山田美妙の小説「武蔵野」は、発表されるや否や反響を呼びます。当時のことを内田魯庵は「極めて新しい言文一致と興浄瑠璃の古い『おじゃる』詞とが巧みに調和した文章の新味が著るしく読書界を驚倒した」(「美妙斎美妙」)と回想しています。国木田独歩の「武蔵野」よりも10年ほど前のことでした。美妙の「武蔵野」には、明

文人の武蔵野

戦場だった時代描く

山田美妙 ②



小金井市前原町の交差点には、一帯が武蔵野合戦の戦場のひとつ(金井原古戦場)だったことを示す碑が立っている

治の東京の「今」を平和に生きる者の視点から、かつて戦場だった時代の武蔵野を伝えています。「原の果」に「夕

暮れの蒸発気」が「逃水」を捨てる風景も和歌からの引用のように描写されていますが、南北朝期の東京(武蔵野)における無名の野原が戦場と化した後の様子が描かれています。作中では、神田明神を遠望し、浅草寺の方角が確認される一帯を「只今の九段あたりの内地」と明治期の地名を当てはめて説明しています。そして、戦陣跡と「死骸」が放置されている光景の実況に続きます。

美妙の「武蔵野」は、武蔵野合戦の名残を目にしつつ鎌倉へ徒歩で向かう父子と、父子の「危難」の噂を聞きつけて出立する武芸の心得ある娘とが、勇ましくも判断を誤り馬や熊の犠牲になる悲劇です。南朝側に加勢する歩兵た

ちが獣の前で呆気なく斃れるところに物語上の特徴があります。

書齋を戦場とした美妙が斬新な語り口で語った武蔵野は、かつて戦場だった時代の武蔵野でした。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

おすすめの1冊

「書齋は戦場なり」小説・山田美妙

美妙再評価に先鞭をつけた嵐山光三郎さんの本を紹介します。美妙愛に駆られて何度も加筆訂正を重ねるうちに評伝が小説になった作品です(残念ながら、現在品切れ・重版未定です)。なお、「武蔵野」をはじめとする山田美妙の代表作は、『いちご姫・蝴蝶』(岩波文庫)で読むことができます。



(中央公論新社提供)